

# 腹膜透析 (PD)

PDとは患者さま自身が生活の質の向上を望み、自立・自助することで最大のメリットを享受できる治療法です。

血液透析とPDを比較した場合、下の表に示したような治療法の各の利点欠点があり、PDを取り入れることで相補的な透析療法が可能となります。2007年末で京都府下には5,224名の維持透析患者さまのうちPD患者さまは160名です。当院では、PDの限界を踏まえながらPDの利点を引き出すよう積極的に取り組んでいます。

ちなみに私の前任地において約150名/約20年PD患者さんの診療にあたりましたが、当院では現在35名の患者さまがCAPD療法中でCAPDの利点を享受しておられます。

(院長：岩元則幸)

## PDとHDの比較

|    | PD   | HD   |
|----|--|--|
| 利点 | <ul style="list-style-type: none"><li>・在宅治療が可能</li><li>・食事制限が緩やか</li><li>・体外循環を必要としない</li><li>・血行動態が安定している</li><li>・残存腎機能の保持に有用である</li><li>・持続的治療のため<br/>生体リズム（血圧・睡眠）に変化がない</li></ul>      | <ul style="list-style-type: none"><li>・透析効率に優れる</li><li>・長期継続が可能である</li></ul>  |
| 欠点 | <ul style="list-style-type: none"><li>・カテーテル関連感染のリスクを伴う</li><li>・除去能がHDに比べ劣る</li><li>・長期継続が困難<br/>(残存腎機能が廃絶した段階ではHDに移行した方が良い)</li><li>・長期継続者（8年以上）のごく一部に<br/>被嚢性腹膜硬化症の発生をみることがある</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・通院を必要とする</li><li>・間歇的治療であり、透析のための症状が発現する</li><li>・血行動態が不安定になりやすい</li><li>・間歇的治療のため生体リズム（血圧・睡眠）に影響を及ぼす</li></ul> |

